

菊舎顕彰会会報

第20号

令和2年3月

発行
菊舎顕彰会

〒759-5512

下関市豊北町田耕

電話083-783-0734

FAX 083-783-0734

e-mail
info@kikusha.com

解て行物みな青しはるの雪

田上菊舎

「新しい時代とともに」

会長 磯部 多恵子

やわらかな春光に心躍る季節となり、会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、顕彰会活動に對しまして、いつも身に余るお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。お蔭様で昨年は菊舎展・俳句相撲・俳句大会・一日研修旅行と、それぞれの行事を滞りなく終えることができました。

これまでの岡前会長の骨身を惜しまないご活躍により、菊舎顕彰会の輪は大きく広がっております。昨年六月に開催されたやまぎん史料館での企画展には、およそ三百名の方々がご来場くださいました。また、十一月に行われた長府での一日研修旅行では、京都からパトリシア先生をお迎えして「尼僧絵画における菊舎」という講題でお話をいただきました。その後、大隈雅子さんによる七絃琴の演奏もあり、貴重な一日を過ごすことができました。

このような活動のすべては、会員の皆様方の会費によって成り立っております。今年度も皆様方の会員継続と新会員の加入をお勧めくださいますようお願い添えをお願いいたします。今後も微力ではありますが、皆様方と手を取り合って顕彰会を盛り上げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

「たすきを渡して」

一字庵十一世 岡 昌子

昨年四月の総会を持ちまして会長を引退いたしました。二十二年間の長きにわたり、会員の皆さまにはお力添えを賜り心よりお礼申し上げます。

近年、外国の研究家たちも菊舎誕生地・田耕を訪れ、海外に田上菊舎を発信してくださっています。その訪日を献身的に支えてこられた磯部多恵子さんに会長を引き継いでいただき、新体制も整いました。これまで同様に温かいご支援をよろしくお願いいたします。

私は昨秋からリンパ腫の治療を続けていましたが、お蔭様で腫瘍も消失し、体調も回復してきましたので、会長を補佐しつつ菊舎の顕彰活動に力を注いでまいりたいと存じます。

菊舎を通じ二百数十年の時を越え、国を越え、人と人々が手を取り抱き合っていく出会いを授かった幸せは、何物にも代えがたく尊いものでした。今日まで当会をお支えくださった会員の皆さま、本当にありがとうございます。また、お目にかかれる日を楽しみにお待ちしております。

菊舎を画家として見る日本美術史研究者からの感想

パトリシア・フィスター

菊舎の俳画は、江戸時代の俳人がよくおこなった、素人絵の典型的なものといえる。詩を愛する友人や知人のために描き、形式的な構成や筆使いにはあまり関心はなかったようだ。俳人として名を馳せていたので、人々は絵画そのものではなく、菊舎の俳画を欲したと思われる。シンプルなデザインが加えられた菊舎の俳諧に魅力と興味をもっていたことは間違いない。また、画題の多様性は、彼女の幅広い関心を反映している。

菊舎はほとんど独学で、旅で見た絵画や木版画から学び、定期的に知り合いの画家から何らかの指導を受けたようである。しかし、より形式的で精密な画風を学ぼうとはせず、心の趣くままに、簡略化したスケッチ風の絵を描くことで満足していた。彼女の書も、同様に独学による、大胆で自由な資質を持つ。絵画と書の技術を高めようとするより、菊舎は創造的なエネルギーを主に俳諧と漢詩の制作に向けた。

その結果、菊舎の画風はどの分類にも属さない独自のスタイルを持ち、中国的な味わいがある。主に文人が好んだ四君子のテーマ（特に竹、菊、蘭）を描いたが、伝統的な文人画と比べると、菊舎の筆致はより抽象的で、我流とも言える自由で即興的な筆使いである。俳諧と漢詩の両方に関心を持っていたことから、彼女の俳画には中国と日本の伝統が融合していく。

簡単にまとめると、菊舎は特定のスタイルや正式なトレーニングに制約されることなく筆と墨を自由に駆使して、独自の世界観を捉えた。それが菊舎の俳画の特徴であり魅力だと思う。

【パトリシア・フィスター】 国際日本文化研究センター名誉教授・菊舎顕彰会会員
日本美術史学者。米国オハイオ州出身で、米カンザス大学助教授などを経て1991年に京都の国際日本文化研究センターに。近世の女性文人画家や尼僧による美術を追ううちに、尼門跡寺院に関心を持つようになった。2009年に尼門跡寺院の歴史や文化に光をあてた展覧会を東京芸術大学美術館で開き、文化財の修復プロジェクトに取り組む。2019年3月に国際日本文化研究センターを定年退任し、現在は京都市にある中世日本研究所（女性仏教文化研究センター）の研究室長。

講演中のパトリシア先生



（長府・徳応寺にて）



七絃琴を演奏中の
大隈雅子さん

平成30年度菊舎顕彰会収支決算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

収入の部

単位：円

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
前年度繰越	26,647	26,647	0	
会 費	500,000	566,000	66,000	312人・566口
事 業 収 入	100,000	71,260	▲28,740	菊舎慕情・句集・俳句手帳
貯 金 利 息	5	3	▲2	
助 成 金	20,000	20,000	0	田耕振興協議会 20,000円
雑 収 入	23,348	74,000	50,652	寄付・香典返し
合 計	670,000	757,910	87,910	

支出の部

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
会 議 費	20,000	2,070	▲17,930	役員会
事 業 費	380,000	535,282	155,282	企画展・図録再版
研 修 費	50,000	15,628	▲34,372	研修下見
研 究 費	50,000	38,142	▲11,858	資料・インク代
事務通信費	130,000	99,991	▲30,009	通信費・印刷・事務用品
交 際 費	20,000	44,600	24,600	副会長葬儀花代他
雑 費	20,000	9,000	▲11,000	文化協会会費他
次年度繰越		13,197	13,197	
合 計	670,000	757,910	87,910	

菊舎顕彰会役員名簿

[顧問] : 岡 昌子
 [会長] : 磯部 多恵子
 [副会長] : 水野 純次 和田 幸子
 [会計] : 下田 勝代
 [常任理事] : 中村 佑・真鍋 聡・山戸 ミエ子・吉村ひとみ・磯部 清昭
 [理事] : 柴田 俊彦・亀崎 俊明・内田 恒生・林 岩雄・山本 重昭
 山崎 和富・西嶋 佳子・古川 裕三・林 若代



令和元年度の主な事業

4月 7日 (日) 理事会 (岡 会長宅)
 4月21日 (日) 菊舎顕彰会総会 (田耕促進センター)
 6月28日 (金) ～30日 (日) 企画展「書と絵で綴る田上菊舎の世界」
 俳句相撲「赤間場所」 (やまぎん史料館)
 10月 6日 (日) 理事会 (田耕促進センター)
 10月 7日 (月) 俳句相撲授業 (豊北高校)
 10月20日 (日) 菊舎顕彰俳句大会 (田耕促進センター)
 11月10日 (日) 一日研修旅行 (長府めぐり) パトリシア先生講演 (徳応寺)
 1月15日 (水) 新春俳句相撲大会 (滝部小学校)
 2月 2日 (日) 理事会 (田耕促進センター)



行事予定

□【菊舎顕彰会総会】五月十日（日）十三時三十分より

下関市豊北町・田耕促進センター

□【一日研修旅行】六月六日（土）佐賀市内（大型バス利用）

肥前通仙亭（煎茶接待）・長徳寺・さがレトロ館（昼食）

鍋島緞通ミュージアム・本庄神社・本行寺（車窓見学）

隔林亭（抹茶接待）

□【菊舎企画展】七月十一日（土）・十二日（日）下関長府庭園書院

菊舎紙芝居・菊舎検定・対談・作品展示他

菊舎関連の写真展（長府庭園三の蔵にて）

期間は七月十一日（土）～十七日（金）

□【菊舎顕彰俳句大会】十月十八日（日）田耕促進センター

（詳細は後日お知らせいたします）

*お知らせ

一日研修旅行についてですが、現在、コロナウイルスが流行っております。五月中旬に於いて収束の兆しが無い場合は、旅行を中止することがあります。そのことをご理解いただいた上で申し込みをご希望の方は、別紙添付の入会申込用紙に記入して郵送かファックスにてご連絡ください。募集人員は三十五名を予定しております。



『菊舎展の感想』

○ 紙芝居、期待通りで素晴らしかった。物語、読み手とも感動です。次回を楽しみにしています。

○ 素晴らしい展示の数々、菊舎さんの心が伝わりました。

○ 菊舎展に来なければ私の一年は終わらないほど、菊舎のバイタリテイある生き方に感激しています。

『俳句相撲の感想』

○ 立体的な演出、ユーモアもあり、名句などいずれも甲乙つけがたく判定に悩みました。

『研修旅行の感想』

○ パトリシア先生のお話がわかりやすくよかったです。七絃琴の音色も身にしました。

○ 地元にながら、初めてゆっくりと長府を歩いた。内容の濃い充実した一日だった。

「編集後記」

令和二年が始まりました。顕彰会の会報もデザインを一新して発行いたします。様々なイベントを通じて、多くの会員の皆様方とお会いできるのを楽しみにしています。今年もよろしく願います。

（清）